

婦人科手術合併症の小腸穿孔術後、多発腹腔内膿瘍に対し2回の
多部位穿刺による経皮的ドレナージにより完治した1例

水沼仁孝

(那須赤十字病院放射線診断科)

- 右卵巣嚢腫にて腹腔鏡下両側付属器切除。4日後、腹痛・腹部膨満出現。その3日後、敗血症性ショック、当院へ転院。
- 同日、開腹。小腸穿孔に対し腹腔洗浄ドレナージ＋双孔式人工肛門造設術施行。挿管中。腹腔内遺残多発膿瘍。1回目に左横隔膜下腔前後、両側腸骨稜に各1本計4本のドレナージ施行。その10日後、脾臓背側、多嚢周囲、右モリソン窩、肝下面、右腸骨稜に計5本のドレナージを追加。完治し、約5週間後に退院。
- 経皮的ドレナージの有効性を示した。